

ま え が き

警察庁が公表した令和7年夏期の速報値によれば、山岳遭難は808件、遭難者数917人といずれも前年より増加しました。加えて、猛暑の影響による雪渓の消失や熱中症の遭難事案も報告されており、山岳安全対策の重要性が一層高まっていると認識しています。

国立登山研修所では、専門調査委員会の調査研究部会において、警察庁及び長野県警察から提供を受けた2021年から2023年までの山岳遭難データに関する分析を行い、結果の一部を令和7年度全国山岳遭難対策協議会にて紹介するとともに登山研修所のウェブサイトでも公表しました。その概要については、本誌にも掲載いたしましたので御高覧ください。

また、昨年より始まった施設の大規模改修工事が本格化し、今年度は、3階宿泊室、2階事務室・食堂・浴場を含む広い範囲で耐震補強・断熱改修・空調設備・屋上防水工事等が実施されました。利用者の皆様に御不便をおかけしておりますが、安全で質の高い研修環境整備のため、何卒御理解と御協力をお願い申し上げます。

「登山研修 vol.41」では、国内外の登山事情や海外登山の貴重な報告、併せて先にお伝えした調査研究部会による山岳遭難データに関する分析結果など、多岐にわたる内容を掲載しています。より多くの皆様に御覧いただき、安全登山の普及と発展に寄与することを願っております。

末筆ながら、御多用のところ御寄稿くださった執筆者の皆様、編集委員の皆様に心より御礼申し上げます。

令和8年3月

国立登山研修所長 米 山 隆